

新庄市議会議員行政視察報告

会派名 絆の会

(全体的事項)

- 1 視察日程 平成 27 年 10 月 19 日 (月) ~20 日 (火)
- 2 調査事項 (視察先)
 - ① 定住自立圏構想の概要 〈中心市〉 秩父市 埼玉県
 - ② 定住自立圏構想の概要 〈締結町〉 小鹿野町 埼玉県
 - ③ 道の駅 株式会社田園プラザ川場 川場村 群馬県
- 3 視察参加議員 (議席順)
今田浩徳 清水清秋 新田道尋 森儀一 (代表)

(具体的事項)

調査事項 ① ちちぶ定住自立圏構想の概要について 秩父市
説明者 秩父市市長室地域政策課 課長引間淳夫氏

〈視察事項〉

地域の紹介
定住自立圏形成に至るまで
ちちぶ定住自立圏の概要
取り組み実績と効果
今後の課題

視察日時 平成 27 年 10 月 19 日 (月) 午後 1 時 30 分~4 時 00 分

地域の紹介

埼玉県北西部にあり面積は 5 7 7.83 km²で埼玉県全体の 15%を占め都内までは 60 分から 80 分の圏内に位置する。平成の合併で吉田町といっしょになり 65.486 人の人口で圏域人口の 60%。財政力指数は 0.594(24~26 年平均)自主財源比率は 40.1%(25 年度予算)であり中心市としての役割を果たしている。

視察所感

今年度七町村と新庄最上定住自立圏の形成協定を締結した本市は共生ビジョンを策定し将来像を圏域で進めて行かなければならない。秩父市を中心市に4町は21年に協定締結と、全国に先駆けて始めており当地域において参考となる点が多々あると考え話を伺うこととしました。

実績効果

構成する市町村全ての合意がないと動きにくい広域行政や、住民サービスの低下を伴うことの多い市町村合併は、行財政基盤強化のメリットがあるものの人口が多い市の影響が強い圏域の設定になり二の足を踏む町村があった。平成20年に定住自立圏構想が設定され、住民ニーズに合わせた行政サービスだけを協定を結んで連携し実現することが可能でまた、市町村が対等な関係を持ち自発的な圏域を設定できることで広域行政は定住自立圏構想にシフトして行った。

3回の協定締結を経て10分野20項目が23年9月に項目が掲げられ内容は私達の取り組む新庄もがみ定住自立圏構想の分類項目と類似していました。

推進委員会の中に10のワーキング部会があり1億3000万円の中で査定して金額要求となるが、人によっては変わると熱が冷めてしまう事業になったり、政策と生活の違いが理解できていない等、問題はまだまだあるとのことでした。

分野毎の取り組みと併せて連携事業の実施体制をとることも効果的で住民にどのように考えて頂くか、実施展開への補助によって残る人と移りたい人を増やしていく。連携取り組み実績を確実に執行することで効果と課題が見え検証すべき点が理解できるのは有効な施策と感じた。

分野別の取り組みを見ますと医療分野の取り組みが最優先事項であることもあり医師と医療スタッフの確保と救急輪番体制の維持に向けて更なる協議を進め充実を図っている。また、協定の追加締結や共生ビジョンの改定を進め、納得できる協定内容にし、議会の承認を得ている。町村との温度差はなくなりつつあるが項目の中では批准する年が議会によっては違ったりまた、1項目においては1町が参加していないのもあり更なる改定を進めて圏域の機能確保と人口定住を促していく。産業振興に観光や企業支援、有害鳥獣対策、地域ブランド構築を取り込み振

興に企画実践してきたが効果が見えない現状で都市圏内の実状が影響している苦しさを垣間見えた。

評価課題

成果報告資料を作り年次毎に検証と評価を行い予算額の設定事業実績、決算額の報告と全ての委員が理解できるようになっており次年度の予算請求が合意のもとに設定できることはより圏域民に寄り添った事業展開ができ理解も得られると感じられた。事業の必要性や重要性が圏域民によく伝わっていると思えず特に中心市の秩父市感じられました。将来への投資と位置付ける定住自立圏構想事業は秩父圏域のみならず新庄最上圏域の手本となるような進捗を期待するものであります。

② ちちぶ定住自立圏構想の概要について 小鹿野町
説明者 小鹿野町 町長 福島弘文氏
小鹿野町 議長 加藤喜一氏
総合政策課 課長 近藤良一氏

〈視察事項〉

地域の紹介
ちちぶ定住自立圏構想の概要
秩父市との協定の経緯
街づくり総合計画

視察日時 平成 27 年 10 月 20 日 (火) 午前 9 時 30 分～11 時

地域の紹介

秩父市に囲まれるように位置し、両神村と合併し現在に至る。人口 13,305 人、面積は 171,45 km²で秩父市に次いで広く定住自立圏構想を取り組む際のキーパソン（町長曰く）の町であり、中心市と密接な関係にある。

視察所感

議長室にて挨拶を交わし町議会の構成や町政の状況を伺い、親交を持つことができ視察研修をスムーズに始めることができました。また、公務があるにもかかわらず町長自ら説明を頂き暖かいおもてなしに感じ入りました。
定住自立圏構想の中心市の対となる側の話を聞き意見を交わすことで、新庄最上定住自立圏構想で構成する町村との関係を柔

軟に構築できる様ヒントを探る機会と思い視察を申し込みました。

実績効果

21年9月議会に於いて形成協定（5項目）に関する議案を可決
22年3月議会で形成協定（9項目）に関する議案を可決
23年9月議会で形成協定（6項目）に関する議案を可決。現在5分野20項目について秩父市と協定を締結している。

包括支援枠負担金 15,000 千円であり、10,000 千円（80%）が医療支援枠負担金で占め最優先事項のためである。医療支援枠は各市町それぞれ 10,00 千円の負担金を秩父地域医療協議会に支出しており総額で 50,00 千円となっている。

*包括支援枠全体では、秩父市 70,000 千円、周辺町 15,00 千円で総額 1 億 3,000 万円となる。

スケジュールは幹事会にて作成され推進委員会、共生ビジョン懇談会、説明会など年間 12 回以上を数える。各市町の担当課長によるところが多く、担当分散の必要性を感じました。

予算作成は先に述べましたが包括分と医療分に分けられ包括分に関しては中心市が 53~54%、残りを 4 町が負担するように予算が組まれます。

評価課題

小鹿野町としての自立があって初めて定住自立圏への参加が町民から理解を得られると町長は話してくれました。街づくりを念頭に置き必要事項を予算だてし、施策執行を粛々とする。しかし、町だけでは成立して行かないことが多くなっている。同等の立場で連携して問題に対応できる定住自立圏構想は地方自治体の強くなる施策と理解し取り組んでいるとのことでした。まだまだ良い点、悪い点は出てくるのはあるだろうが秩父市を中心に協定を進めより強固な圏域にしたいそうです。新庄市も町村と対峙し市民から喜ばれる定住自立圏構想の協定を進めて行かなければならないと感じました。

道の駅 田園プラザ川場

株式会社田園プラザ川場

群馬県 利根郡川場村

視察日時

平成 27 年 11 月 4 日（火）

午後 1 時～

国土交通省全国モデル道の駅選定。好きな道の駅 5 年連続 1 位。

関東道の駅アワードプレミアム 30 みんなのNo.1 選定等各方面から高い評価を受け、家族や仲間同士、カップル、老若男女問わず全ての人々が楽しめる環境を兼ね備えています。食べよう。散歩しよう。体験しよう。宿泊しよう。お酒を楽しむ。買い物しよう。をコンセプトに来た人を飽きさせない導線が引かれています。食べ物の施設が 11。体験施設が 5 買い物施設が 6 と同じ施設の中にであったり、独立した施設であったりと、滞在時間を忘れてしまうほどでした。昼食を頂きましたが、川場産米雪ほたかに「もちぶた」鱒と自慢の食材を頂きました。ホームページも充実しており詳しくは検索をしてみてください。我々4人は感嘆の言葉しか出ず、これから道の駅に取り組もうとするならば是非訪ねてみてはとお勧めしたい。